

第11回 姉妹都市活動室 公開例会 2022.12.17

“おもろい英語落語”

「英語落語パフォーマー 小夜姫です」

三年ぶりの公開例会がクリエイティブセンター、多目的ホールで開催されました。
その様子をお伝えいたします。

いやあ、楽しかったです(^^)
小夜姫さんの声がよく通って
聞き取りやすく、英語も平易な
言葉で分かりやすく、大いに楽
しませていただきました。
前半後半と衣装も変えて、そ
の意気込みが感じられました。
落語自体が面白かったのはも
ちろんですが、聴衆を巻き込ん



(開演前の準備風景)

でのワークショップがまた大いに楽しめました。聴くだけでなく聴衆参加型のプログラムで、
参加者もドキドキしたり笑ったりととても有意義な時間が過ごせたことに感謝！

ではその内容とは・・・

先ず最初に、落語の誕生と英語落語についてお話いただき勉強になりました。

1. 秀吉の御伽衆の曾呂利新左衛門が落語の創始者とも言われる。
2. 江戸落語は寄席から始まりしっとりとした人情噺が多く、上方落語は屋外の屋台からはじまったもので三味線や鳴り物の入った滑稽噺が多い。
3. 英語落語を始めた桂枝雀についても、小米時代からのエピソードと「HOE インターナショナル」の山本さんとの出会いから英語落語を始めた。という簡単な紹介はイントロとしてよかったです。

This is Rakugo



を作り上げる。

4. オチ、punch line が大事。

1. 落語には story があり、世界中どこでも人間共通の life style はあるのでどこでも通じる。

2. imagination が大事！ Believing is seeing.

演者と聞く側の間で生まれるのが落語の世界である。
サッカーボールのやり取りは、非常に分かり易かった。

3. 扇子と手ぬぐいと
体の動きで、イメージ





Substitute doctor

弟子の周達の、お茶やお菓子をいただく様、娘さんのおなかを触った後の動転した動きを生き生きと演じておられて笑えました。周達の真面目さがより可笑しさを際立せる対比が絶妙。

Samurai

侍と騒がしい客との間に挟まれて右往左往する接客の男の必死さを繰り返し話して、最後に見事などんでん返しのオチが見事でした。特に侍の尊大さと最後にチラッと見せる愛嬌のギャップも演者の話術の見せ所ですね。



Workshop

1. 猿一家の話を、イギリスから来られたIさんが、小夜姫さんの指導で迫真の演技。
2. Ice cream と I scream の語呂合わせまで持っていく経過を、イエメンから来られたHさんが、はにかみながらの熱演。
3. 登校拒否の男を会員のKさんが熱演。オチがいかにも Rakugo。

次に参加者からの感想をご紹介します・・・

*おかげ様でとても楽しいひと時を過ごさせていただきました。

私がお誘いした人たちからの感想を拾ってみました。

- ・小夜姫さんの隅々まで通る素晴らしいお声、トーン、笑顔。。。(^▽^)/
- ・全てが魅力的で、落語の世界に引き込まれた。
- ・以前ほかの演者の英語落語を聴いたことがあるが、演者が違えばそれぞれに違った魅力があることを再発見した。
- ・ワークショップでは、少し恥ずかしそうにしている素人相手に笑いの渦に巻き込んでしまう小夜姫さんの腕にも魅了された。

会終了後、近くを通られたイエメンからの参加者に「素敵な演技でしたね」と声をかけると、はにかみながら「楽しかったよ」と答えてくださいました。「笑い」は世界共通で、必要不可欠なものだと感じました。

*IIN の公開例会にまた来てくださり本当に感謝いたします。

コロナ禍でこれまでのような対面での例会や、イベント(日本文化の紹介など)が開催されない中、会員やその知人、皆が集う素晴らしい機会となりました。久しぶりに再会できた方もいましたので。

コロナで縮小されてきた日常が、英語落語を聞き、身も心も開放された気持ちで会場を出ました。当日は寒い日でしたが、心はポカポカ♡。温かな気持ちで帰宅いたしました。ありがとうございました。

*エネルギーの塊の小夜姫さん、素敵でした。元気になるわ～。

以下、少し違う角度から感想を。

私は当日の小夜姫さんの送迎を任せ、役得とばかりに、駅までお送りする時に直接お話をさせて頂きました。

小夜姫さんによると、「コロナ禍でここ三年ほどは落語会が開くことができなかつたのですが、今年になりあちらこちらから問い合わせがあり、以前のように英語落語の会を開催できるようになりました。今回参加の皆さんは、笑うぞ！と準備して集まってきていらっしやつたので、とてもやりやすかつたです。いいお客さんでした。」とうれいお言葉！

そして、同じ英語落語でも、外国の落語家さんと、日本人の落語家さんとは、大きな違いがあると教えてもらいました。それは、「間」です。話の途中で作るその何も言わない1～2秒の短い空白ですが、お客さんの想像力が膨らむとても大切なもの。その「間」の入れ方で、登場人物の性格を表すこともできるし面白みを倍増することもできると。「半間」といって、意図的に「間」を短くして、せき込んだような感情表現もできるとのことでした。

落語には、コミュニケーションの大切な極意がたくさん詰まっているようです。歳を取る程に相手の話を聞かず、こちらばかりが一方的に話をしてしまうという失態が一度や二度ではない自分自身を反省。ゆつたりと「間」を挟むことができれば、お互いに気持ちの良い会話ができるはず。私にできるかどうかは、知らんけど～。

*小夜姫さんのお声が良いい。わかりやすい。元気になった！

又機会があれば聴きたい。など。

イギリスからのIさんは、日本の人達と触れ合えるよい機会になったようです。ありがとうございました。

*ワークショップに思わず参加する事になったKです。貧しい英語力で、年甲斐もなく！赤面の至り！

でも、でも、とてもいい思い出になりました。

小夜姫さんの明るく、優しい笑顔に癒され、楽しいひと時でした♡

*小夜姫さんの口演、年忘れの素晴らしい会となりましたね。

お誘いした方々も喜んでおられたようで、本当にありがとうございました。

声を出して笑うことの少ないこの頃、楽しい時間をいただき、感謝申し上げます。

*うっとうしいニュースばかりの昨今ですが、久しぶりに面白くて楽しいひと時でした。

セリフ、表情、身振り、手ぶり、それに落ちのおもしろさという落語のようなユニークな話芸が世界にあるのでしょうか？

これも是非、Cool Japan のひとつになればいいな、と思いました。

国内で英語落語を広めるには小夜姫さんも高校や大学の ESS などに働きかけて学園祭、文化祭などで実演する機会を作ってほしいです。英語力を高めることができるだけでなく、日本の若者が人前でプレゼンやスピーチをうまくできるようになる良いきっかけにもなるかと思います。

コロナ渦で参加者数を制限して開催しましたが、IIN 会員 30 名、同伴者 32 名(外国人 5 名含)の参加がありました。

終始穏やかで温かい笑いに包まれ、本当に素晴らしい公開例会でした。参加者全員が心和むいい時間を過ごされたと確信しています。

また機会があれば是非 3 度目をお願いします(^_^)